【vol.70】メロディックマイナースケールの重要ポジション

どうも、大沼です。

今回から『メロディックマイナースケール』についてやっていきましょう。

このスケールは、ジャズやフュージョンでは普通に使うものですが、ロックやポップスなどでも使う場面が時々出てきます。

何の変哲もない曲だと思っていたら、ポロッと謎のコードが出てきたりして、「ここどーなってんの？」みたいな時に使ったりします。(※もちろんその限りではありませんが)

メロディックマイナー系で覚えておきたい重要なスケールは3種類あって、

・基本のメロディックマイナー

・リディアン♭7(リディアン・ドミナント)

・オルタード(オルタード・ドミナント)

の3つです。

この内、オルタードは、覚えるポジションの形が、ほぼメロディックマイナーと同じなので、実質、2つ+αと言っても良いですね。
(※このテキストでは、オルタードはメロディックマイナーの半音下から始めるポジションで覚えます)

最近、頭をフルに使う内容が多かったと思いますが、久しぶりの単純な暗記です。

日々のトレーニングに組み込んで、「気がついたら覚えてる」と言う状態に出来たら最高ですね。

それでは、やっていきましょう。

『メロディックマイナースケール』は、ナチュラルマイナー、ハーモニックマイナーに続く、3つ目のマイナースケールですね。

それぞれのスケールを対比させていきますので、まずは先に覚えた2つのスケールを見ておきましょう。

Copyright (C) 2015 shunichi onuma All Rights Reserved

一応、キーとしてはkey=Amを想定して、トニックはA音でいきます。
(※今回はキーとコードの概念は使いませんが)

図1、Aナチュラルマイナースケール重要ポジション

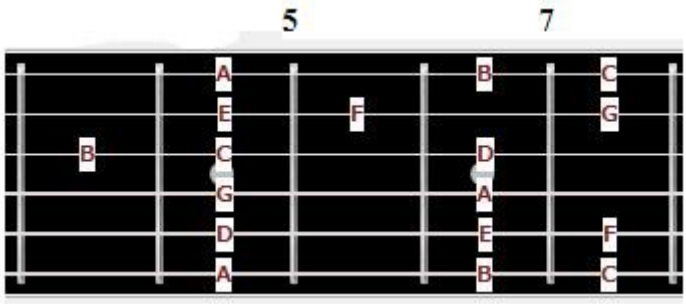
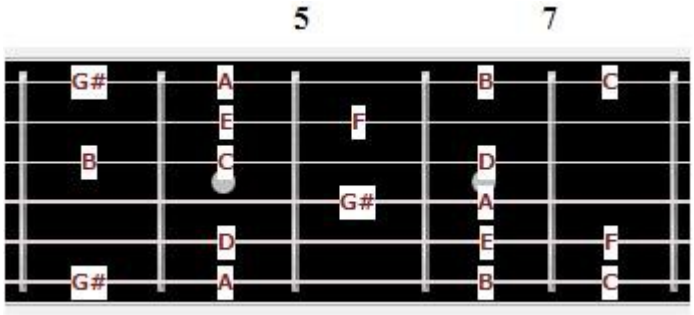


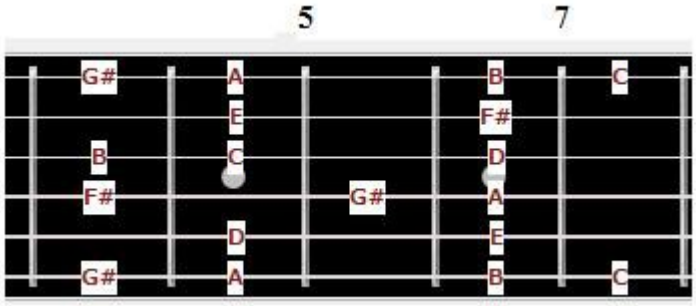
図2、Aハーモニックマイナースケール重要ポジション



さて、過去に覚えた2つのマイナースケールの違いは、7度の音でしたね。

今回覚えるメロディックマイナーの構成は、上の2つと比べるならば、
『ナチュラルマイナーの6度と7度を半音上げたもの』もしくは、
『ハーモニックマイナーの6度を半音上げたもの』になります。

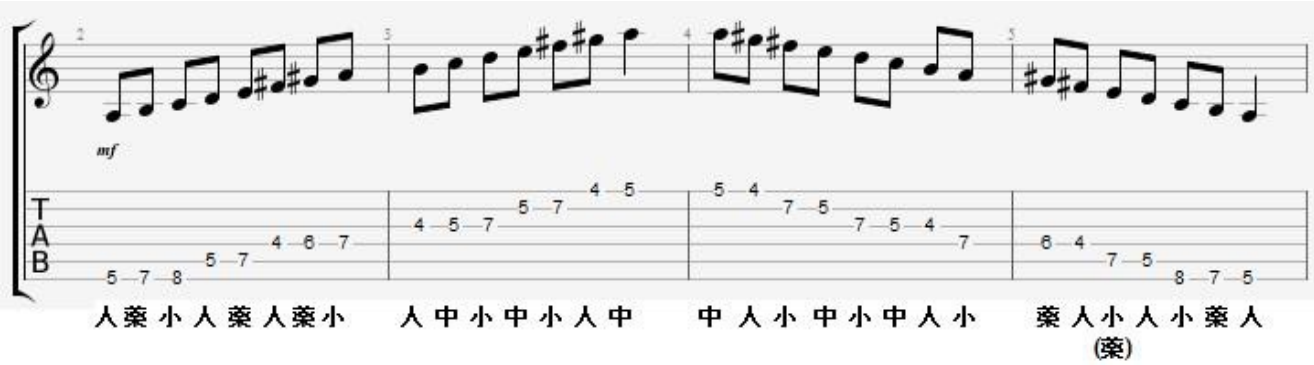
図3、Aメロディックマイナースケール重要ポジション



初めてこのポジションを弾く場合、若干、指使いに悩むと思うのですが、
ここでは、こんな感じで弾いてみましょう。

譜例1、Aメロディックマイナースケール(6弦トニック)

Copyright (C) 2015 shunichi onuma All Rights Reserved



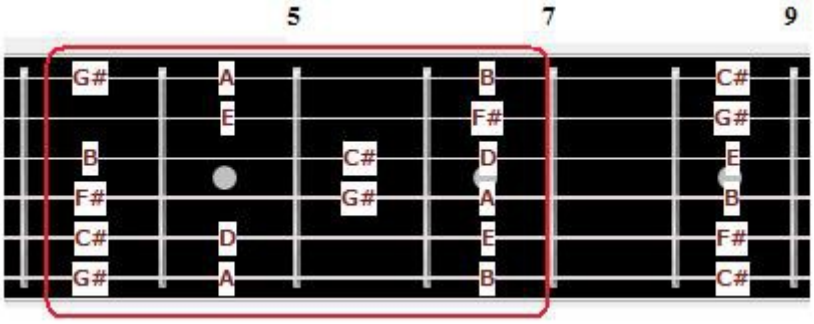
最初は、5〜4 弦間でグリッと横にずれる感じに戸惑うかも知れませんね。

ですが、この辺りの部分が、3 種のマイナースケールを分別している音の位置なので、
非常に重要なポイントなのです。

メロディックマイナーのインターバルは **tonic**、**M2nd**、**m3rd**、**P4th**、**P5th**、**M6th**、**M7th** となっていて、先ほども言った様に、ナチュラル、ハーモニックの両マイナースケールとは、6 度、7 度の位置に違いがあります。(※ハーモニックは 6 度だけ)

後、気がついた人もいるかも知れませんが、メジャースケールとも、3rd が違うだけで、
他の構成音は同じですね。(※両者は M3rd と m3rd の違い以外は同じ構成)

図 4、A メジャースケール

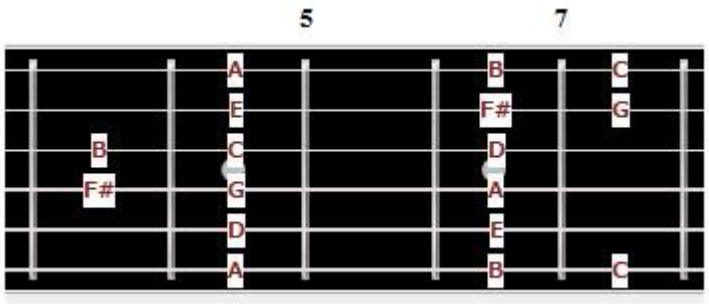


なので、スケールをじっくり聴きながら弾いてみるとわかりますが、m3rd の周辺以外は、
全体的に明るい感じすら覚えると思います。
(※3 種類のマイナースケールをゆっくりと弾いて、よく聴き比べるとわかります。)

後は、もっと言ってしまえば、ドリアンスケールとも 7 度が違うだけですね。
(※メロディックマイナーが M7th、ドリアンが m7th)

図 5、A ドリアンスケール

Copyright (C) 2015 shunichi onuma All Rights Reserved

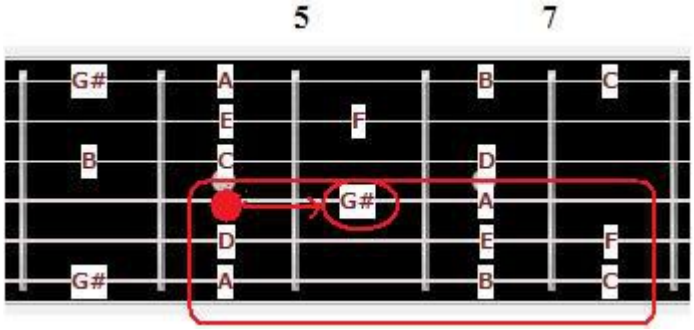


と、この様に、過去に覚えてきたスケールに、構成がかなり近いものもあるので、
それぞれを関連付けて覚えるのもありでしょう。

先ほども同じような話をしましたが、それぞれのスケールをゆっくり弾いてみて、
構成音が少し違うだけで、全体の響きが結構変わる、という事も確認してみてください。

ちなみに、なぜ、マイナースケールには 3 種類もあるのかと言うと、まず、
ナチュラルマイナーには、tonic に半音で接する(上行する)『導音』が無い為、
メロディーなどが不安定になりやすい、と。(※この文脈での「導音」は M7th の事です)

「じゃあ導音入れたら良いじゃん」と言う事で、**ナチュラルマイナーの m7th を半音上げて M7th にして、tonic への上行導音に変化させたのがハーモニックマイナー**です。



A ナチュラルマイナーの m7th である G 音が半音上がって、M7th(G♯)になり、ハーモニックマイナースケールが出来上がっていますね。

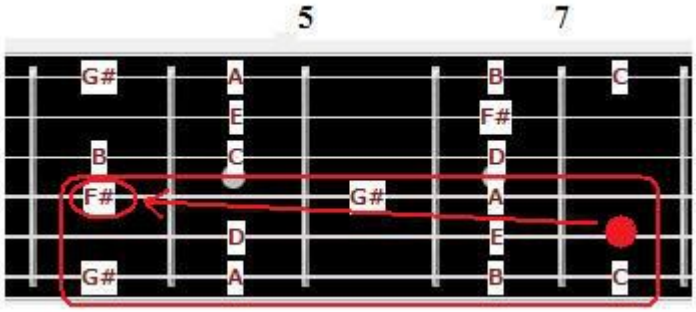
こうすると、tonic への解決感も強まって良い、と。

さらに、**本来、ナチュラルマイナースケールの構成音では、マイナーキーのダイアトニックコードに、1 度(Ⅰm7)のコードへ強進行するドミナント 7th(Ⅴ7)が構成されません。**
(※ナチュラルマイナーでダイアニックコードを作ると 5 度はⅤ m7 になります)

でも、**ナチュラルマイナーをハーモニックマイナーにすると(m7th を M7th に変化させると)、ダイアトニックコードも変化するので、5 度のコードが「Ⅴ 7」になり、**
1 度(Ⅰm7)に対するドミナント 7th(Ⅴ7)も出来て、コード進行もスムーズになる、と。

Copyright (C) 2015 shunichi onuma All Rights Reserved

で、これで OK と思ったら、今度は**ハーモニックマイナーの m6th と M7th の間が空きすぎて(増 2 度の間隔)、メロディアスさに欠ける**となり、**ならば 6 度(m6th)も半音上げて、調整したら良いじゃん、と言う事でメロディックマイナーが存在することに。**

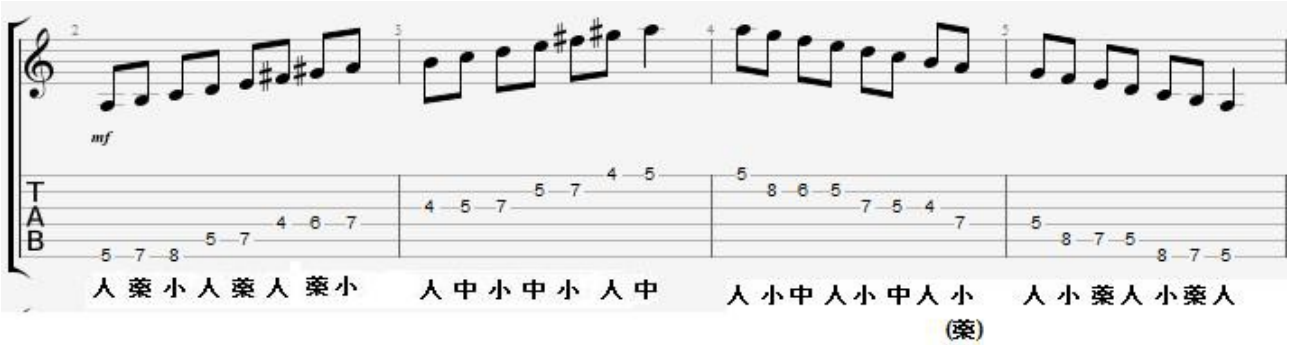


これで、ナチュラルマイナーを基準に、3 種類のマイナースケールを使いわける事により、解決感(終止感)を強めたり、メロディックさを強めたり、色々と問題を解決できるようにしてある、と、そう言う事です。

メジャーキーとは違って、「マイナーキーはスケールが 3 種類もあって大変だなー」と思うかも知れませんが(僕も思いました)、一応、音楽的にはちゃんとした理由があるので、これらを覚えておく必要性があるんですね。

さて、6 弦トニックの重要ポジションは先ほど載せたので、残りは 5 弦トニックのポジションなのですが、先に、メロディックマイナーを学ぼうとするとどこかで出会う、『上行はメロディックマイナーで下降はナチュラルマイナー』と言う譜例を弾いてみましょう。

譜例 2、メロディックマイナー(上行)＆ナチュラルマイナー(下降)



この「上行のみメロディックマイナー(下降はナチュラルマイナー)」というルールは、クラシック理論ではそう決められている様なのですが(※現代理論ではどこまで厳密に扱われているのかはわかりません)、ロック、ポップス、ジャズなどのポピュラーミュージックでは、特別、そういう制限はありません。

これが存在する理由としては、まず、上行がメロディックマイナーなのは、先ほどの導音の関係(tonic へ導く M7th が欲しいと言う理由)です。

Copyright (C) 2015 shunichi onuma All Rights Reserved

で、下降がナチュラルマイナーなのは、下がる時は tonic の半音下の音(M7th)は別段要らないし、メロディックマイナーの構成音がメジャースケールに酷似しているため、そのまま下がるとマイナーの感じが全然しないんですね。

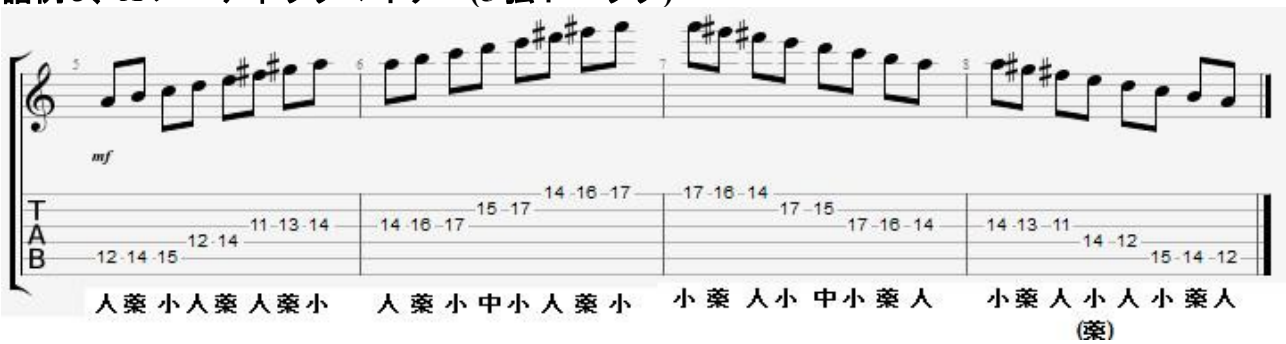
(※メロディックマイナーをそのまま下がると、m3rd が鳴るまでは、明るいスケールに聴こえると思います。)

なので、僕個人としては、上記の譜例は単純な「スケールの切り替えの訓練」として練習していたりします。

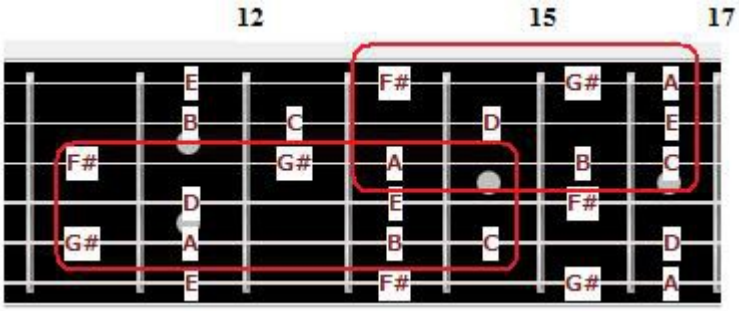
ただ、これがスムーズに出来るかどうか？と言うのは、指板上のスケールポジションと音の配置の理解度の問題なので、我々ギタリストはこの様な使い方はあまりしないとしても、音楽の素養として出来るようにはしておきましょう。
(※実際この切り替えは役に立つので)

では、今回は、後残っている 5 弦トニックの重要ポジションを弾いて
終わりにしたいと思います。

譜例 3、A メロディックマイナー(5 弦トニック)



5 弦にトニックを見る場合は、この様に 1 オクターブずつ、2 つのブロックに分けると
わかりやすいでしょう。



上記の譜例 3 では、3 弦 14 フレットの A 音を基点に、オクターブごとに分けたフレーズにしていますが、譜例 1 のように、ストレートで一気に弾ききるパターンの指使いも考えてみましょう。(※その場合、3 弦上のどこかで、スッとポジション移動します)

Copyright (C) 2015 shunichi onuma All Rights Reserved

後は、5 弦解放の A 音を基準にした、ローポジションのパターンも弾いてみてくださいね。

それでは、今回は以上になります。

次回はメロディックマイナー系の残りの 2 種、リディアン♭7(リディアン・ドミナント)と、オルタード(オルタード・ドミナント)の重要ポジションを学んでいきたいと思います。

ありがとうございました。

大沼

Copyright (C) 2015 shunichi onuma All Rights Reserved